



2004年度実験実績等



実験 期間	実施機 関	実験内容
20 05 年 3月 9日 ～3 月14 日	北海道宇宙科学技術創成センター HASTIC、北海道大学、北海道工業大学、東海大学学生ロケットプロジェクト 他	<p>北海道大学、北海道工業大学などは、CAMUI型と呼ばれるプラスチックを燃料とするハイブリッドロケットを美成地区の原野で打ち上げました。今回で4回目の打ち上げで、初めて超小型衛星CAN-SATを搭載、上空で放出する実験に成功しました。東海大学学生ロケットプロジェクトは、2回目となる大樹町での自作ハイブリッドロケットの打ち上げを実施、無火薬分離機構により無事回収に成功しました。</p>   
20 04 年 11月 29日 ～12 月10 日	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 飛行試験技術開発センター 他	<p>本年5回目の多目的小型無人機の飛行実験が行われ、各種のデータが取得されました。12/10まで行われる予定です。</p>    
20 04 年 11月 9日 ～1 月14 日	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 航空安全技术開発センター	<p>次世代航法システムに関する概念検討 JAXA所有の多目的実証実験機MUPAL-アルファ(ドルニエ機)によりGPSを用いた次世代航法システムに関するデータを取得しました。</p>
20 04 年 11月 2日	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 飛行試験	<p>本年4回目の多目的小型無人機の飛行実験が行われ、各種のデータが取得されました。 軽量化のため車輪のない機体は、乗用車に乗せて走行しながら離陸、自律飛行で長時間の飛行に成功しました。</p>

<p>～1 1月9 日</p>	<p>技術開発 センター 他</p>	
<p>20 04 年 9月 27 日～ 10 月1 日</p>	<p>独立行政 法人宇宙 航空研究 開発機構 (JAXA) 飛行試験 技術開発 センター 他</p>	<p>本年3回目の多目的小型無人機の飛行実験が行われ、各種のデータが取得されました。</p>
<p>2004 年 9月 19 日～ 9月 27 日</p>	<p>独立行政 法人宇宙 航空研究 開発機構 (JAXA) 航空安全 技術開発 センター 及び独立 行政法人 電子航法 研究所 (ENRI)</p>	<p>次世代運行方式の研究(適応型飛行経路を用いた次世代運行方式の研究) 第3回NOCTARN飛行実験が、JAXA多目的実証実験機MuPAL-アルファ(ドルニエ機) とMuPAL-イプシロン(三菱ヘリコプターMH2000)を用いて実施されました。 大樹町で2機を同時に飛行させての実験は、今回が初めて。実験担当者は、来年も 実施したいと言っていました。</p>
		
<p>2004 年 6月 25日 ～7 月2 日</p>	<p>独立行政 法人宇宙 航空研究 開発機構 (JAXA) 飛行試験 技術開発</p>	<p>4月に引き続き2回目の試験、実用化へ向けて機体を改良し自律飛行などを繰り返 し行いました。 7月1日は好天に恵まれ抜けるような青空の中、白く塗られた機体が気持ちよさそうに 旋回していました。</p>

日

センター
他



2004
年
5月5
日～
5月
13日

YAMAHA
発動機(株)
スカイ事
業部

全長3.6メートル250CCのエンジンを搭載した無人のラジコンヘリコプターに、赤外線カメラを載せて夜間フライト性能、遠距離フライト性能、耐久力アップなど目指して航空公園及び周辺地域で実験を行いました。静岡県からはるばる当公園にやってきた実験スタッフ9名は、広々とした公園とさわやかな気候の中で実験ができ、所期の目的を達成できた。機会があればまたここで実験したいと語り、13日撤収しました。



2004
年
4月
19日
～4
月28
日

独立行政
法人宇宙
航空研究
開発機構
(JAXA)
飛行試験
技術開発
センター
他

カメラや観測機器を搭載し、気象観測や海上監視などに利用する多目的小型無人機の開発を進めているJAXA飛行技術開発センターでは多目的航空公園で開発機の飛行試験を実施しました。機体は全長1.85メートル、全幅3.32メートル、重量20キログラム、軽量化のため車輪がないので、乗用車の屋根に載せて加速し離陸させます。開発担当者は今回の試験で必要なデータが収集できた。実用化へ向けて大きく前進できたと話しています。

